

アルゼンチンは 外国からの鉱山投資を待っている

ラウル エイ ザルデニー*
ネロ ジェイ デュランティー**

アルゼンチン（ラテンアメリカ第2の大きさの国）はこれから鉱業と天然資源の発展に力を入れようとしている。2,200万人をこえる人口に対して3億ドルが年間必要とする鉱石と鉱物の輸入に費やされている。これは今日のアルゼンチンの貿易の悪バランスのおもな原因である。しかしアルゼンチンが石油工業に成功したために——それは近年石油の探査と開発のために参加させた外国資本によるのだが——アルゼンチンは石油の輸入国よりもむしろ輸出国になった。この重要な変化はアルゼンチン経済を改善するのにもっとも望ましい実地的な方法の1つとして同国の鉱物資源をより多く利用しようとするアイデアに刺激を与えている。

残念なことにはアルゼンチンの鉱物資源は国の工業需要につれて発展してきていない。このような情勢は法律上の制約 税金 利益の見込のたたないことや鉱床の不足のために起こってきたのではなくてただ1つの理由 すなわち既知の潜在力のある鉱床を發展拡張させようとするために必要な思い切った投資をしようとしないうちに起こったのである。これから述べようとするのはアルゼンチンの膨張する鉱工業への投資に関する現在の情勢を明らかにしようとする試みである。

法律および税金の考慮

アルゼンチンの鉱業法は 鉱業法令集のなかに詳細に述べられてあり ラテンアメリカの他のどの国の鉱業法よ

りも自由である。といっても 操業中の鉱山資産に対する課税の種類は公正であるが多種多様にわかれている。

請求税：この種の年間の税金は 会社や個人からの鉱区の廃棄と請求の数による。税金

は州によって異なるが どんな場合でも 鉱区請求1件ごとに1年5ドルをこすことはない。

所得税：この税金は 純益の最大33%まで等級をつけて課せられている。アルゼンチン外の株主配当金にはそのほかに8%付加される。しかしもしも会社が外国人所有になっていてもアルゼンチン国内に完全な濃縮 精練 精製の設備を有しているならば総合所得税は最大38.36%である。この所得税は 鉱山操業のための探査費と資本改善に対してはとり立ては行なわれない。鉱床の枯渇してゆくことのために減価償却費の割引は認められている。

過剰利益税：これらは 利益が投下資本の12%をこえたときに適用される。

資産売却所得税：鉱山資産の売却あるいは譲渡された利益に適用される。

鉱山操業の所在によって課せられる その他の税金は市 住宅 鉱山（鉱区）使用料 連邦印紙税 関税である。しかしアルゼンチン連邦政府は どんな特別税でも減ずることのできる 資本定着特別法や 特別税を完全に廃棄することのできる工業促進特別法令を制定した。このようにしてリオ・ネグロ州のシエラグランデ(Sierra Grande) 鉄鉱床は これらの特殊法のもとに外国資本の援助をかりて発展した。この事業の投資者は 利益金も投資金も本国送金してよいという政府の保証を持っている。また冒険性のある鉱山投資事業は

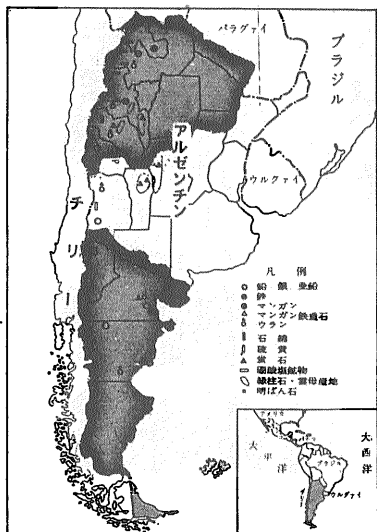
- (1) 所得税の部分的あるいは全部の免除
- (2) 過剰利益税の部分的あるいは全部の免除
- (3) 連邦印紙税の免除
- (4) 従業員住宅と付属設備を建設するための工業信用銀行からの資金の融資

の解決したことによって 前進することができるようになってい。このようにして 適格の事業に対する政府の援助と協力は拡大された。

鉱物資源と生産高

アルゼンチンは 緑柱石 ビスマス 螢石 リシウム 鉛 亜鉛 銀 チタン タングステンとバナジウムの既知埋蔵量を有し その需要量以上を生産している。世界の需要と経済状況に左右されたアルゼンチン鉱物の輸出は 別表に見られるとおりである。

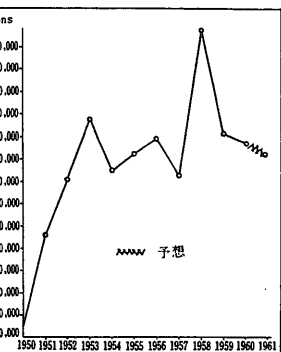
上述のものに加えて 数種その他鉱物の既知埋蔵量が知られているが これらの需要の50%は輸入されている。



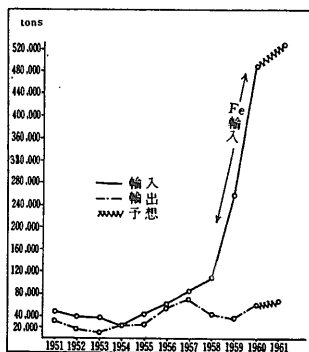
第1図 主要鉱床位置図

* ブエノスアイレス大学 地質学教室

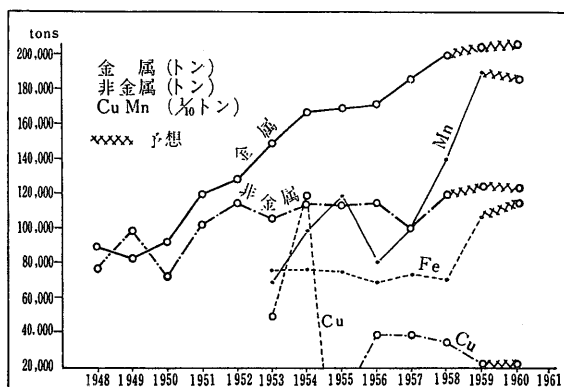
** ブエノスアイレス 鉱山局



第2図 鉄業生産高
(ガス・石油・石炭・石材を除く)



第3図 鉄石輸出入高
(ガス・石油・石炭・石材を除く)



第4図 鉄物生産額

かなり大きい良質の鉄鉱の量が 国の2つの場所にある。すなわちジュジュイ州のザプラ鉄山と 開発の準備としていま調査の最後の段階にあるシエラグランデ鉄床である。マンガンのかんりの埋蔵量が エステロのサンチャゴ州とカタマルコ州のファレロン・ニグロにある。硫黄は北西アルゼンチンにあるが コスト高である。銅鉄床はないが 少量が鉛-亜鉛鉄山の副産物として回収される。ボーキサイト鉄床は知られていないが アルミニウム酸化物に富んだ明ばん粘土の広範囲にわたる鉄床が リオネグロ州とチュバット州の海岸の近くにある。いくらかのすが北部アルゼンチンで稼行されている。しかしこの数年間生産されていない。石綿はラアリオジャ州にあるが 屋根ふき用の波型石綿製造用程度の限られた発展にとどまっている。ウラニウムは 数ヶ所に胚胎されていて 広域調査は原子力委員会の手によってなされたが 埋蔵量の規模は知られていない。金の漂砂鉄床は 国のいろいろの場所にあるが記録された生産はない。アルゼンチンには アンチモン クローム 水銀 モリブデン ニッケルおよびコバルトについては経済的利益のある既知鉄床はない。これらの鉄物に対するすべての需要は他の輸出によって得られた金によって支払われている。アルゼンチンにおける鉄物の消費は めざましく上昇した。1960年にマンガンの消費は 2,700トン(金属含有量)であったが1964年にはその需要見積もりは34,000トンに昇るであろう。最近の調査では1965年における85,000トンの鋼鉄(現在建設中の設備から)生産に 1,500トンのクロームと915トンのニッケルを必要とするだろう。このトン数のすべては 多分輸入されるだろう。

最近の進歩

1961年から1962年にかけて アルゼンチン政府は 国の経済に大きく影響し しかも有利な効果のある事業計画を承認した。この承認は シエラグランデ鉄床を研究し発展させる外国会社の借款団に対して与えられた。

バージニア州リッチモンドのレイノルド化学株式会社は年間 25,000 トンの生産能力を有する アルミニウム製錬所を 4千万ドルで建てる認可を受け取った。カリフォルニア州のオークランドのカイザー アルミニウム化学株式会社は 2,850 万ドルのアルミニウム回収工場を建てる政府承認を受取った。カイザーの子会社として アルゼンチンアルミ工場が組織され 年間20,000トンのアルミニウム初期生産が計画された。新工場は多分明ばん鉄床の近く 天然ガスの利用できる Chubut 州に建てられるであろう。

アルゼンチンは 西はチリー 北はボリビアに境されている。これら両国は 重要な鉄物生産国であって 両国の多くの地質的特徴は アルゼンチン国内に延びてきている。しかし これらアルゼンチンの乾燥した境界線付近は 人口稀薄で 輸送の確立されている路線と人口中心地からもっとも遠く これまで 適当な地図もなく研究も調査もされたことはなかった。しかし 段々とこれらのことは改善されている。ごく最近 西部のある州は 空中写真測量を契約した。そして アルゼンチン政府の陸軍工廠は 目下アンデス山脈の14万平方kmの空中写真測量を入札中である。このようにして 政府は地方でも中央でも 国の鉄物資源の研究と発展に 真の興味を示している。

アルゼンチンは その鉄工業の拡張を望んでおり 調査に対する門戸を解放し 投資資本に対する保証を提供している。鉄山師 開発家 企業家 投資家に対する援助は 地質鉄山局 陸軍工廠 工業局と工業信用銀行によって提供される。鉄山事業はアルゼンチンの発展に重要な役割りを演ずるであろう。アルゼンチンはその門戸を鉄山事業に関心をもつすべての関係者に解放している。

(World Mining 誌 1963年10月号から 松井寛訳)

文中 しばしば出てくる シエラグランデ鉄床は 西ドイツ調査団による 2年間の調査の結果 埋蔵量 約1億トンといわれる 鉄含有量は58% 比較的高いりんを含有する